講義名	企業論（経営学科）			授業形態	
担当教員	上田　義朗	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 ３時限		
		単位数	2	履修開始年次	２年生
		ナンバリング・コード			

主題と概要

新しい企業の経営システムの模索が始まっています。また世界的にＳＤＧｓやＥＳＧ投資が強調されるようになってきました。またコロナ後の働き方として起業・副業が活発です。これらの現代的なニーズに対応できる「企業論」の講義を追求したいと思っています。また、そのためには現象面の紹介ではなく、歴史的な背景や経緯も不可欠です。

そこで現代の代表的な企業形態である株式会社について、その組織・構造・機能を理解・検討します。そのために企業論の中心的な論点である企業統治（コーポレート・ガバナンス）に焦点を当てて講義します。

具体的に教科書を輪読し、それについて解説し、討論します。同時に新聞や雑誌の資料を配付し、具体的な事例を分析します。また、本講義は対面講義が原則ですが、オンデマンド講義（ＹｏｕＴｕｂｅ）も部分的に併用します。その用途は次のようです。
（1）宿題のための資料とする・・・予習を支援するための事前の講義です。
（2）対面講義が時間不足の場合の補講とする。

本学は「実学」を「建学の精神」（＝企業で言えば「企業理念」）としています。しかし従来のオンライン講義が対面講義に戻るだけでは進歩がありません。せっかくのオンライン講義の体験を対面講義にも活用することが重要と考えています。このような「ハイブリッド講義」の実践を理解・協力してくれる受講生を歓迎します。

到達目標

目標１．現代の代表的な企業形態である株式会社の基本的な構造や組織について理解・説明できるようになる。さらに企業活動に大きな影響を及ぼすＥＳＧ投資やＳＤＧｓの観点から企業の実態を観察・分析できるようになる。

目標２．経営戦略論・エージェンシー理論・取引コスト論・ネットワーク理論など経営理論に基づいて企業活動を理解できるようになる。

目標３．日本企業の株式所有構造の歴史（＝財閥解体からＥＳＧ投資まで）を学ぶことによって、日本の株式会社の将来像について自分の意見を述べることができるようになる。そのために日本のみならず米国・ドイツ・英国・北欧・韓国・中国・ベトナムのコーポレート・ガバナンスの動向と課題を概観する。

提出課題

レポートを何回か書いてもらいます。少し長いレポートは提出期限を定めます。短い意見やコメントは「レスポン」で提出してもらいます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

レポートの内容について講義中に発表してもらって、それについて口頭でコメントを述べたり、相互に議論したりします。このことでレポートに対してフィードバックします。

評価の基準

レポート（レスポンを含む）と発言回数などを総合的に判断して成績を評価します。

期末試験の実施は未定です。実施する場合、成績評価の中のウェイトは大きくなります。

これらの配点は未定です。最も優秀な学生が９８点程度になるように採点基準を設定します。

当面の配点、発言：２０%、レポート：３０%、期末試験：５０%。

履修にあたっての注意・助言他

１．教科書は必ず用意して下さい。昨年も使用しているので、先輩から譲り受けることも可能でしょう。

２．オンデマンド講義は予習または補講です。対面講義は復習・補足・討話を重視します。

３．講義では発言を重視します。思ったこと、意見・質問を自由に言ってみる。間違っても良い。恥ずかしいと思う気持ちを克服できると、自分の「器量」が大きくなります。そのほかメールで意見を述べてもらうようにします。

４．講義中にＳＮＳ（＝スマホ）を積極的に使用して、専門用語や企業について調べて発表してもらいます。

５．講義で出席はとりませんが、発言やレスポンで加点します。これは社会人になっても同様です。自分から発言しなければ、意見なし（＝存在感なし）とみなされます。今から個性を発揮し、自分の存在感をアピールする練習をしましょう。

教科書

.よくわかるコーポレート・ガバナンス.	風間信隆編著	ミネルヴァ書房	2600	9784623083992

参考図書

.株式会社の世界史.	平川克美	東洋経済新報社	1800	9784492315323
.日本企業のガバナンス改革.	木ノ内敏久	日本経済新聞出版	1000	9784532114305

その他

適時、プリント資料を配付します。

授業計画

基本的に教科書の目次に従って講義します。それを受講生の自習に任せたり、未掲載の話題や論点を加えたりしながら議論を進展させます。

1.　株式会社とは何か
2.　会社機関・・・株主総会・取締役会・監査役・各種委員会
3.　株式会社と経営者支配・・・所有と経営の分離、所有と支配の分離
4.　ステークホルダーと企業経営
5.　日本におけるコーポレートガバナンスの歴史と現状
6.　同上・・・株式持ち合いの生成と崩壊
7.　同上・・・企業不祥事
8.　コーポレートガバナンスの国際比較・・・米国・英国・ドイツ・北欧
9.　コーポレートガバナンスの国際比較・・・韓国・中国・ベトナム」
10.　株式会社と資金調達・資本コスト
11.　Ｍ＆Ａ
12.　企業の社会的責任（ＣＳＲ）と企業倫理
13.　機関投資家の株式投資と行動規制とＥＳＧ投資
14.　日本企業の現状と課題
15.　総括

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
○	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

講義の中にイ（反転授業）とウ（デュスカッション）の形式を部分的に取り入れます。

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習・・・事前に指示する教科書の範囲や資料を読む。オンデマンド講義を視聴する。対面講義での質問に答えられるように準備する。回答すると得点になる。１２０分～

復習・・・対面講義で補足説明を受ける。質問する。発言する。教科書とノートの内容を整理する。それについて次回の講義の復習事項の質問について回答する。それが得点になる。１２０分～

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

上記の３つの到達目標1～３の達成によって、卒業認定・学位授与の方針における①「企業経営の仕組みや組織行動について、経営理論に基づき、自ら考え、理解することができる」ようになる。さらに②「さまざまな企業や組織の現状分析から仮説、検証を通して、企業や組織のリーダーに求められる、具体的な改善策や解決策の提案ができる」能力を磨くことができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

すでに説明したように「ハイブリッド講義」を実施します。しかし、これは理想ですが、実際には難しい。教員は２回の講義をすることになるし、受講生は予習（オンデマンド講義）を強制される。しかし、理想に向けて挑戦したいと思います。
対面講義で不明な言葉は即座にＳＮＳで意味を調べる。対面講義でゲームなどする学生がいましたが、怒りよりも、かわいさや哀れさを感じます。子どもから大人に早くなって下さい。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。
１．株式投資ファンドの組成（岩井コスモ証券、販売終了）
２．海外進出のコンサルティング（現職：日本ベトナム経済交流センター副理事長）
３．複数業種の国際的なビジネスマッチング（現職：ネパールＨＲＤＩＣ社顧問、合同会社ＴＥＴ）
・・・研究上の論理的な整合性（＝理論）と、非論理的・情緒的な曖昧性（＝現実）との「乖離」について、その理由や背景、それら両者の統合についての私の経験と知見は、受講生の指導に活用できる。

備考

講義中の発言を高く評価する。

質問は、講義中または前後、さらにメールで対応します。これも得点を与える。
Yoshiaki_Ueda@red.umds.ac.jp